

平成 23 年 1 月 4 日

「進化する力」で改革を続け、さらなる成長を
—電通新年仕事始式で高嶋社長があいさつ—

株式会社電通（高嶋達佳社長）の平成 23 年新年仕事始式が、1 月 4 日午前 9 時 50 分から東京本社他で開催された。東京本社の仕事始式は汐留本社ビル 1 階電通ホールで行われ、高嶋社長が年頭の所信を述べた。要旨は以下のとおり。



2010 年は、電通グループとして、国内外で着実に成果を収めることができた。私たちは、グローバル市場で見れば、新興勢力である。だからこそ、先行する勢力に追いつき、追い越していくためには、変化を生み出す力であり続け、常に新しい驚きを市場とクライアントに提供し続けなければならない。電通グループならではの個性豊かな人材と、ネットワークでつながる柔軟な組織で、クリエイティビティと最新のテクノロジーを生かしたソリューションを提供し、2011 年、世界各地で Good Innovation. の大きなうねりを起こし、希望溢れる 1 年にしていきたい。

一方、国内市場を見ると、いまだ当社の業績が十分に回復したといえるレベルに達していない。数字を伸ばすためには、川上、川下の全ての領域において、クライアントやメディアのニーズを掘り起こし、成長を促すような仕事をしていかなければならない。

中期経営計画を 1 年半前からスタートしている。これは、「仕事に対する取り組み方の変革」であり、「電通人の意識改革」ということである。各部門において中計に基づいて進められている改革の成果の一例を紹介すると、クリエイティブやマーケティング・プロモーション領域でのコスト管理の仕組み作りに始まり、「クリエイティビティ」と「知恵」の部分をフィーという形で評価していただく報酬体系によるビジネスも増えてきている。また、プラットフォーム・ビジネスでは、コンテンツ流通、IT ソリューション、スマートグリッドなどの領域で、新たなビジネスチャンスを切り開いている。

グローバルに関しては、昨秋、電通ネットワーク・ウエストを立ち上げ、欧米、南米などで体制強化を行ってきた。今年は、高い成長が見込まれる中国を含むアジア全域にも注力する。

デジタル領域では、約 1 年前に米国のイノベーション・インタラクティブ社を仲間に加えた後、電通デジタル・ホールディングスと共にデジタル事業への投資ファンド立ち上げを行いながら、営業体制の強化などを進めた結果、2 桁成長で業績が好調に推移している。

さらに、人材育成にも引き続き力を入れていく。昨年スタートした「電通マネジメント・インスティテュート (DMI)」、「電通マネジメント塾 (DMJ)」に加え、今年はソリューション領域におけるリーダー人材を育成する社内プログラムの「New School」を開講する。

このようにさまざまな施策を実行しているが、今、私たちに求められているのは「進化する力」である。先人から受け継がれた財産を守るとともに、新たな息吹を吹き込み、成長のために、終わりのない改革を続けていく。明日の電通を築くため、そして、さらなる業績回復に向けて、自信を持って一緒に頑張ろう。